

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 13日は、高気圧が日本の東をゆっくり東へ移動する。前線が華中から東シナ海にのびる。
- 14日から15日にかけて、高気圧が日本のはるか東をゆっくり東へ移動する。前線上の低気圧が東シナ海から本州の南岸を東へ進む。
- 16日は、低気圧が日本の東に進み、低気圧から前線が日本の南を通過して沖縄・奄美付近にのびる。
- 17日は、低気圧が千島近海へ進む。華中から東シナ海に前線がのびる。

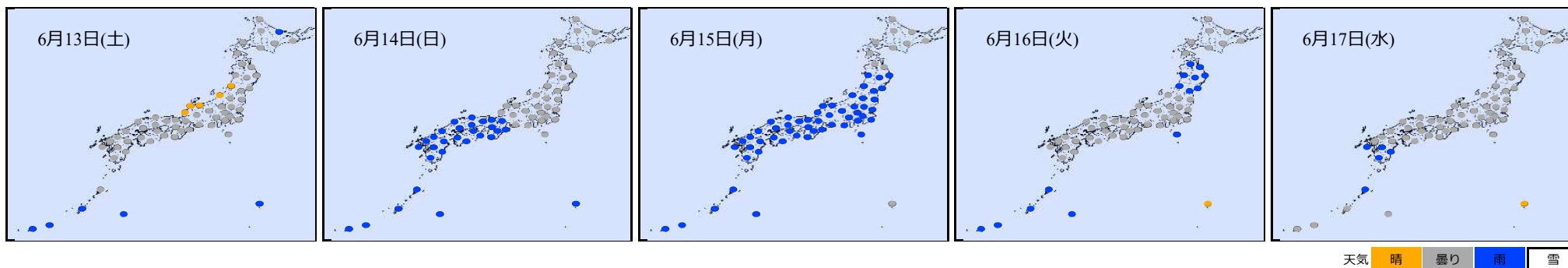
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 14日から15日頃にかけて、東日本太平洋側、西日本太平洋側、沖縄・奄美は、前線の活動の程度によっては、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

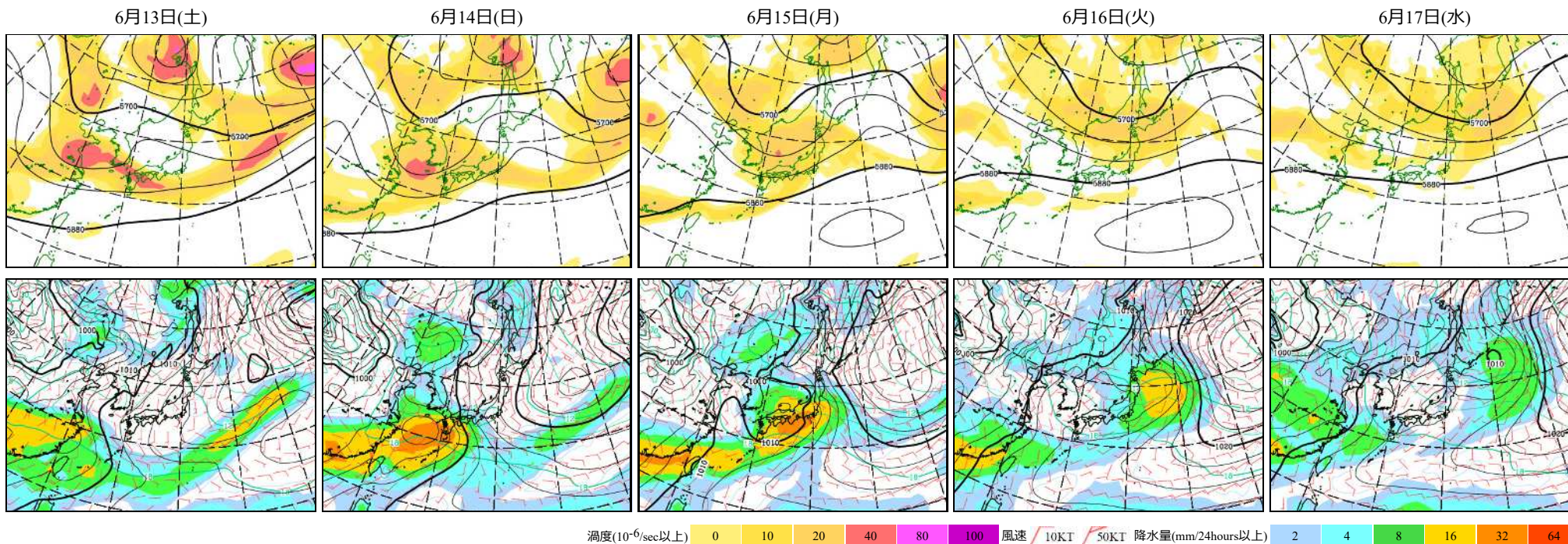
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

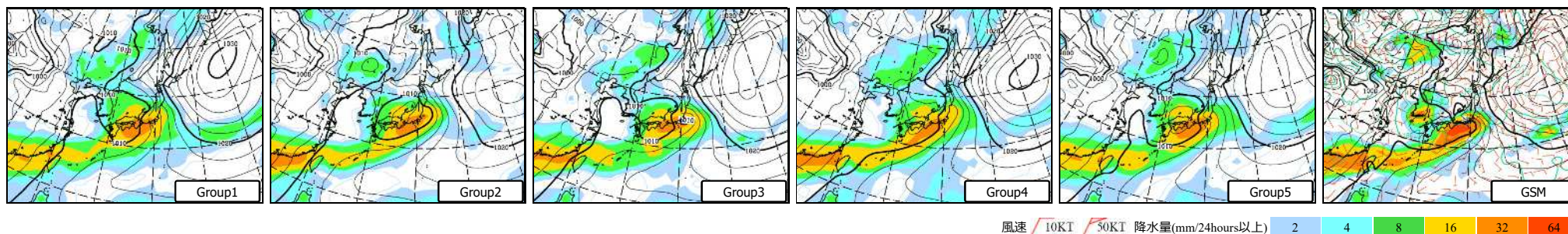


- 北海道地方は、雲が広がりやすく、13日は雨の降る所がある。
- 東北地方、東日本、西日本、沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月15日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、14日から17日にかけて東シナ海から千島近海へ進む低気圧のコースが北寄りとなった。このため、降水確率ガイダンスの値は、14日は西日本、15日は東日本から東北地方を中心に高くなった。
- 15日頃に本州の南岸を進む低気圧は、海外モデルでは日本モデルよりも南寄りのコースを進むものもある。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の後半は5700mの特定高度線のばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。